

日ポ・サロン会報

日ポ・サロン会報 第19号

発行日 平成31年3月20日

事務局 日ポ・サロン

長岡 正

〒573-0084 枚方市香里ヶ丘6-14-6

TEL.072-852-2147

<http://www.nipposalon.org/>

ワルシャワ旧市街 旧王宮前広場

「日ポ両国の記念年を祝し、日ポ・サロンの発展を祈って」

ポーランド留学生支援団体 日ポ・サロン代表 高 島 和 子

2019年は日本・ポーランド国交樹立100周年記念の年であり、両国で紡がれてきた様々な交流の歴史を祝う記念講演・祝賀行事が数多く予定されています。

同時にワルシャワ大学日本学科もりヒテル・ボグダン博士が創立して100周年の祝賀の年であり、秋にはワルシャワ大学で記念祭が大々的に開催されます。

又、9月には日ポ・サロンも設立20周年を迎えます。日本が大好き、日本でぜひ学びたいと熱意溢れる学生を招聘して17人目のヨアンナさんは新撰組・土方歳三、今秋迎える18人目のトマス君は萩原朔太郎と研究目的は多岐に亘りますが、礼儀正しく真摯な勉強態度と丁寧な日本語にはいつも感心させられます。

日ポ・サロンの留学生招聘が契機となって神戸大学からワルシャワ大学へ交換留学生を受け入れて頂いており、その相互交流こそ未来への希望と思います。

皆様の長年の温かい志のおかげで日ポ両国の若い世代へ手を差し延べ支援出来ている事に深く感謝し、続いてご支援賜りますようお願い申し上げまして記念年のご挨拶といたします。

総会並びに講演会

2018年1月27日(土)

於/阪急グランドビル27F「白楽天」

会員35名・留学生2名出席・委任状:54名提出

<第1部>

1. 2018年度行事予定

- ① 4月 5日 春の観桜親睦会
- ② 8月20日 ウラさん送別会
- ③ 10月 第17期招聘留学生到着予定
- ④ 10月 6日 三原剛バリトンリサイタル

2. 理事紹介

理事長 高島和子
 理事 河合康子・岸本啓子(事務局)
 澤瀉徹郎(音楽担当)・田中サヨ子(留学生担当)
 樋口晴子(書記)・吉岡久代・牧孝仁(会計)
 長岡正(会計監査)
 退任理事 常田じゅん子
 新理事 川端佳子・松下仁美

3. 新入会員(アイウエオ順/敬称略)

池田瑞子・篠原いつ・田口雅弘・竹居明美
 南忍・智子

新招聘留学生 ウルシュラ・アルトマイエル
 紹介及びスピーチ

<第2部>

講演会・講師 マルチン・タタルチュック



京都における日本伝統文化の創造と 「スピリチュアル」の日本文化

マルチン タタルチュック

京都大学文学研究科
 二十世紀学専修博士課程

日本は、大勢の外国人から見たら、極端的な国に見えてしまう。ハイテクが一般的に作用され、近未来の国でありながら、伝統文化の豊富な国である。その伝統は古代から守られ、

受け継がれ、日常に共にされているというイメージが持たれている。近頃、以上の二つのイメージとともにもう一つのイメージを持っている人が多い。それは「スピリチュアル」の日本文化である。その「スピリチュアル」とは、日本という世界、そして日本人の世界観は、アニミズム的な

八百万の神、幽霊、妖怪などのものでなりたっていることだと。でも日本人は、そのようなものを真剣に信じておらず、深く考えず、ただ、共に生きることである。

①近代: みやび文化

伝統的な国のイメージは、19世紀末に明治政府によって作られた。そのときに平安朝廷の文化を基にし、文化の拠点を京都にした。それを「国風文化」後に「みやび文化」と呼ぶ。それ以来、日本はその政策通りに伝統的な国でありながら、モダンな国でもあると想像されてきた。さらに京都は、日本の文化の中心だと考えられてきた。国風文化の象徴として平安遷都千百年記念祭とそれに伴う事業を行い、京都市が変化して始めた。それに対して、スピリチュアル的な日本のイメージは、国風文化と合わなかった。

②戦前: 町衆文化

帝国となった日本の中では、秀吉の再評価が行われ、明治時代に作られたみやび文化(国風文化)に町衆文化や豊臣秀吉の縁の地が加わる。また、郷土愛も生まれ、明治維新も再評価され、近年歴史の舞台としての京都も考えられる。「観光」という概念も正式に生まれ、日本初の旅行雑誌が発行される。他方では、土地の民俗文化に興味を持った柳田国男も活動し、国民の目を伝説、迷信、妖怪に向かわせる。

③戦後: おもてなし文化、土俗文化、オカルト文化

戦後の京都は、軍国文化から古典文化の舞台に再び変化し、古典文学の舞台となった場所が女性の旅行先に変わる。同時に土俗文化に興味を持ち、オカルトが流行る日本の日本人が現れる。またそれには、テレビが影響する時代も到来したことが関係すると考えられる。

④平成の京都

平成に入ると京都のイメージが多く変化する。一方では、行政側は京都の新しい顔を探ることになる。そのころの京都では、1895年の平安遷都千百年記念祭に因んで、平安建都1200年記念事業が行われた。それをきっかけに京都を見直し、特に文化人類学者の小松和彦が明治期に抜けられた民俗文化の要素を足すべきだと主張した。小松氏は、明治政府と同様に主に平安時代に着目し、その時代に由来する伝説・

妖怪などを紹介し、「魔界」と呼び出した。その結果京都の「魔界」を紹介する本・番組などが多数作られ、のちに訪れた安倍晴明を中心とする「晴明ブーム」の火付け役となった。

インターネットのような、情報を簡単に共有できる新メディアも現れる時期でもある。その経由で情報が国内外に拡散された。2016年8月にNHK BSプレミアムで4時間スペシャル「京都異界中継」が放送され、小松氏の20年強に渡る活動の成果だと考える。

⑤日本の「魔界」と外国人

他方では、外国で「魔界・異界」に基づくスピリチュアルなイメージは、特にインターネットの経由で広まり大衆文化（主にアニメや映画）の一環として知れ渡ったと推測できる。そのためスピリチュアル的なものを京都で探し回る人はまだいないが、これから外国人の新観光体制になる可能性が高い。

私の研究では、日本の「みやび文化」に新たに追加されたスピリチュアルな面、いわゆる現代の民俗文化、が誰に作られ、支えられどの方法で広まったかを分析し、なぜ日本はこのような想像されるようになったかを考察している。または、明治期において文化を作るときに京都は重要な役割を果たされたと同様に、平成期にも京都がどのように役割を担ったか明らかにしようとする。そして外国に対して、自分の独自性を作り続けた日本は、これから「スピリチュアル」な側面を新たな独自性に使用できるか考えていく。

////////////////////////////////////

「2018年度総会並びに講演会に参加して」

荒 木 和 実

私はまだ入会3年目の新参者で、前回の総会は「阪急グランドビル関西文化サロン」が会場でした。が、今年はロケーション抜群の「白楽天」です。すぐ隣に「ハッピーファイブの大観覧車」、はるか南には「アベノハルカス」も見えます。

詳細に渡る昨年度の報告、今年度予定事業等の報告後、マルチン先生の講演になりました。何気なく毎日を送っている私には、外国の方達から教えられる「へー」があります。本日お話頂いたマルチンさんの講演にもそれがありました。よく勉強されていることに感動です。

「モダンと伝統」現代の民俗文化について

1. 「日本は最新最先端の技術と古い伝統が両端にある国である事」
2. 「外国向けの日本のキャッチコピーは明治維新政府によって決定された事」です。

最新の事柄では①京大のIPS細胞、②スーパーコンピューター、③かわいいaibo (ES-1000) 君を生んだAI（人工知能）の進歩、④アルツハイマー病の早期検出法の確立等々たくさんあります。

古い伝統は①万世一系を守り続けて、今なお存続している天皇制。②「京都伏見稲荷大社・千本鳥居」「和歌山の仏教都市・高野山奥の院」等の平安時代の雅を醸し出す神秘的な空間があります。実際、旅行会社の添乗員さんに伺っても、外国の方々はとても喜ばれるようです。

廃仏毀釈で大切な国宝級の品々を捨ててしまった維新政府も、150年たった今となつてはインバウンドに受け入れられる「キャッチコピー」を残してくれたものです。本棚の隅っこに並んでいる「源氏物語」を読もうかしら。

その後は、お待ちかね中華料理の登場です。美味しいお料理をいただきながら、今年の留学生ウルシューラさんからのお話の時間。可愛いお嬢さんでポーランドの方には珍しい小柄な体躯、漫画や音楽に興味をお持ちのようです。

1年はあっという間に過ぎます。立派な論文を完成し、たっぷり日本の良いところを吸収されます様、お祈りいたします。

春の遠足

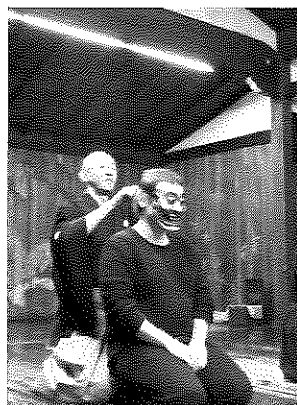
「京都白川桜鑑賞と大江能楽堂見学」

2018年4月5日(木)

会員26名 留学生3名 元留学生3名 幼児3名
お客様2名



モニカさん(2008年招聘留学生)とカロリナさん親子



大江能楽堂にて

「春の交流会」

祇園白川の桜見物と大江能楽堂見学

土本 三恵子

日・ポサロンの今年の春の遠足は、祇園白川の桜見物と大江能楽堂見学でした。

4月5日、京阪祇園四条駅観光案内所前に集合した時、小さなとても可愛い子供さん達がありました。元留学生の子供さん達でした。日本の男性と結婚し、今は日本に住んでいる元留学生3名がそれぞれ子供さん達を連れて参加して下さっていたのです。

留学生3名、元留学生3名、幼児3名、会員26名、お客様2名の合計34名が揃ったところで、祇園白川へ出発しました。

曇り空の寒くもなく汗ばむでもない天候で、散策にはぴったりの日和でした。今年の冬は、寒さの厳しい冬でしたが突然やってきた春でしたので、桜の満開はとても早くてほとんどの桜は散ってしまっていました。まだ所々に残っている桜や新緑がとても美しく楽しい散策になりました。気持ちの良い散策は心も身体も癒されます。あちらこちらで和服を着た人たちが写真を撮っています。中には打掛姿の女性も多数いました。結婚式の前撮りかと思いましたが、中国の観光客との事。少々驚きましたが、観光客も大事なお客様と、思うことにしました。

楽しい散策の後には“京新山”での昼食です。“松花堂”を頂きました。お庭には桜が沢山植わっていましたが、ほとんどの桜は盛りが過ぎてしまっていました。が、花より団子！松花堂はとても美味しく頂きました。その上、食べきれない位の量でしたので、大満足の昼食でした。

食後、鴨川沿いを歩いて大江能楽堂に行きました。大江能楽堂の辺りには観光客もほとんど居ず、京都らしい町並みの中にひっそりとたたずんでいました。

大江能楽堂は、能楽観世流大江家五世又三郎(後に竹雪)によって創建されたそうですが、紆余曲折を経て現在に至るそうです。ここには子供さん達が来られないので、留学生3名だけが参加されました。当代の若くて素敵な家元に能や狂言、囃子、能面、能衣装についてお話を聞いた後、実際に体験させて貰いました。留学生も舞台上上がって歩いたり、能面を付けて歩いたり体験をさせて貰っていました。お面を付けると正面だけしか見えないのでとても不安になるそうですよ。見ていると簡単そうに見えるしぐさも難しいものなんですね。

お話の“高砂”(昔の結婚式では必ず謡われました)を皆で謡いましたが、これも思ったより難しいものでした。能面もですが、能衣装の素晴らしさには感動致しました。今ではもう作れる人もいないでしょう。

久しぶりの京都は楽しい楽しい一日でした。

ウルシュラ・アルトマイエルさん送別会

2018年8月20日(月)

於/ホテル エルセラン3F

会員 32名・留学生2名・お客様3名

講演者 吉村久二雄氏(川柳塔社常務理事)

「川柳とは何か」



講演中の吉村久二雄氏

「留学生ウルシュラさん送別会並びに講演会」

槇 得 信 次

日・ポサロンの入会が認められて以来、毎回の親睦会開催のご案内を楽しみにしております。理事長高島様及び企画立案して下さる役員の皆様、心から感謝申し上げます。

ウルシュラさんの留学と研究テーマの発表につきまして、驚きましたのは研究テーマの「吸血鬼」でした。日本では「吸血鬼」や「ドラキュラ」は、無縁のものと思っていました。何事にも真剣に取り組み、研究されたご様子に心打たれました。日本の学生達もこの研究心を見做って欲しいなと思います。日本留学の経験・体験を通して、多くの事を学ばれた事でしょう。ウルシュラさんのご努力に敬意を表します。

第一部の講演会で吉村先生の「川柳」に関するご講演を拝聴する機会を得まして、非常に幸運でした。私のように文学的素養のない後期高齢者には、「川柳」を学ぶ事は無理だと思っていました。しかし、先生のご講演を通して「川柳」は、話し言葉で自由に詠めるし、取っつき易いと教えて頂き、ストレス発散、認知症予防に効果有りとの事です。挑戦しようと思いました。他人に迷惑を掛けないうで、楽しめれば有り難いことです。

恥を覚悟で、初めて「川柳」作成にチャレンジしました。(「川柳」になっていなかったら御免なさい)

1. 若き日に 恋した妻も 今は喜寿
2. 定年後 肩の荷おりて 家事増えた
3. 叩いても 何も出てこぬ 前頭葉
4. 忖度(そんたく)は ないと言い張る 政治屋さん
5. 幸せに 気づかぬ人は 不幸せ
6. スマホ好き 老いも若きも 依存症

吉村先生ありがとうございました。

— 感謝のうちに —

「送別会スピーチ」

ウルシュラ・アルトマイエル
(神戸大学国際文化学部)



Altmajer Urszulaと申します。ワルシャワ大学の日本学科の学生で、今年は皆さんのおかげで神戸大学で留学できました。

本日のスピーチは研究だけではなくて、留学のことについても話したいと思います。

まず、少し留学について詳しく説明します。次は研究について話します。何を研究できましたか、どこでできましたか・・・

まず、この留学のチャンスをありがとうございます！この留学は皆さんのおかげでできました。言葉に表現ないように感謝しています。誠にありがとうございます。本当に大きいチャンスでした。この一年間で日本をもっと知るようになって様々な新しい経験をして日本に住めるのは大事な経験になりました。日本の文化をもっと詳しく知るようになって嬉しいです。ポーランドにいる時は日本の文化についてたくさん勉強できるけど、こんな理論的勉強は足りません。ここにきてもっと詳しく日本の文化を学んで、いい勉強になりました。これ以外たくさん友達が出来ました。この留学はあつと言う間に終わりましたが、本当に大事な一年間で、貴重な思い出になります。

来日の一番大事な理由は研究ですけど、この一年間で学んだ事は論文だけではなくて、たくさん役に立つ事をまなびました。私の日本語能力はまだそんなに高くないけど、前と比べて日本語で話す自信がもっとあって、言いたい事は自由に言えると思います。前は何か言いたいときは文章とか文法とかを考えて、ずっと考えて、あまり話せませんでした。今は文法の間違ひとかしても、自由に話せます。ポーランドでは日本語を使える機会はそんなに多くないので、主に大学の授業の時だけ日本語で話したけど、日本では勿論いつでもどこでも日本語を使いますので、本当c9いい勉強です！

そして日本では様々な素敵な所を観光できて、日本をもっと知るようになりました。たくさん旅行は皆さんの応援のおかげでできました。秋は一緒に万博公園に行って素敵な紅葉を見えました。一回ハイキングも行って、とても素敵な景色見えて感動しました。私は奈良にも行って、後は春にみんなと一緒に桜を見に京都へ行きました。後で能の劇場に行って、楽しかったです！

様々なイベントにも参加できました。例えばお相撲さんの激励会に参加できて、たくさんピアノとかクワイアのコンサートなどの参加できて本当に楽しい時間を過ごしました。

一緒に神戸大学で留学しているNataliaともたくさん旅行をしました。例えば広島、宮島、東京とか一緒に行って、後私は横浜にも行って、どこも素敵な所でした。

日本人の友達もたくさんできましたけど、日本人だけではなくて、他の国の友達もたくさんいます。ロシア、ブルガリア、インドネシア、メキシコ、スペイン、イタリア、フランス、イギリス、中国・・・今は海外旅行に行ったら、どの国でも会える友達がいます。でも、予想以外今年に経験した事は楽しいことだけではなかったです。大雨、神戸の土砂崩れ、地震、日本の夏の暑さと冬の寒さも経験できましたけど、何とかこんな恐ろしい経験も大事でした。地震は人生で初めてこんな強いのを感じて、とても怖かったです。後で、一週間ぐらいずっと不安でした。余震が来るかどうか緊張しました。こんな経験は怖くて、大変ですけど、こんな大変な経験も大事でした。前は時々ニュースで地震について聞きましたけど、全然想像できませんでした！どんな感じが全然分かりませんでした。

今はこんな事経験して本当に怖いと分かりました。思ったより地震は怖いです。ですから、これも大事な経験だと思います。でも、こんな怖い経験があっても、楽しい方は多かったなのでこの留学に来て後悔の気持ちがありません。日本に来れるようになって本当にうれしいです。

後悔していることは一つだけです・・・

一年間は短すぎます！本当にあつと言う間に終わって、今は全然ポーランドに帰りたくないです。一年間は思ったより本当に短いです。

もしまた日本に留学する可能性があったら、考えずにいきます！

今、私の研究テーマに移りましょう。

私は来日した一番大事な理由は、卒業論文のため研究です。皆さんはもう私の研究テーマは吸血鬼だと知ってます。初めてこれを聞くとみんなはいつもびっくりし、ちょっと可笑しいテーマだと多分思っていましたけど、私は面白くてオリジナルなテーマを選ぼうと思いました。学生はよく例えば：「日本の伝統的な事はどうやって海外で受ける？海外でどんな印象ですか？」とか研究しています。私はいつも、子供のころから、みんなと違うことをしましたので今回も逆にするようにしました。「どうやって海外のものは日本で影響されましたか？」と調べたいと思いました。海外の文化は日本の文化と混ぜたらどうやって日本人はこれをイメージしますか？そして、どうして吸血鬼ですか？私は民俗の伝説とか様々な国の古い伝説などが好きです。でも、こんな伝説は主に一つの地域しか知られていないけど、吸血鬼の伝説は世界中に広がりました。元には日本ではなかったけど、海外から来て、日本のポップカルチャーにもたくさん例がありますので、これにしようと思いました。

研究の範囲は主にポップカルチャーです。ポップカルチャーといえば：映画、ドラマ、文学、漫画とアニメ、劇などです。先ず、文学に集中して、後は映画とかアニメにある例を説明します。なぜなら、日本のポップカル

チャーでは初めての吸血鬼は文学に現れました。

そして日本にいる間は主に書類、本、映画とか集めていました。この一年間でたくさん本や漫画や映画などを買えました。ヨーロッパにいる時より日本にいる間はこんな書類は手に入れやすいので、たくさん集めて、これから書くのには便利になります。皆さんは私を一年間応援しましたので無事たくさん書類を集めました。皆さんの応援は本当に役に立ちました！もし皆さんの応援がなかったら、この論文を書くのはもっと難しくてしんどくてそんなに上手に書けないと思います。去年、このテーマを選んだ時は少し悩みました。何処で書類見つめますか？科学者の論文ではこのトピックはあまり人気ではないので本や映画や科学者の本などはそんなに手に入れやすくないなと思いました。もちろんヨーロッパ人の科学者の本は自由に買えましたが、私は日本の書類が必要です。ワルシャワ大学の日本学科の学生は論文を書く時は、主に日本語の書類を使わなければなりません。英語の本とか使ったら論文の評価は落ちます。もし英語の書類の方が多かったら合格できません。ですから、吸血鬼の伝説を研究した日本人の科学者の本は必要です。皆さんのおかげで日本に来て毎月奨学金で応援しましたので、このトピックについて買った本は思ったよりたくさんあります！

本だけではなくて漫画も集めました。吸血鬼について歌ってるバンドのCDなども自由に集めました。

皆さんをがっかりしないように論文を頑張ります！一番短いページの量は80ページですけど、私は100～120ページ書く予定です。吸血鬼の伝説に興味がある日本人とたくさん話してメモをして論文に使えます。意見や印象などについて聞きました。後で、ポーランド人の印象と違うかどうか比べます。

これ以外、吸血鬼に関係する曲を歌っているバンドとインタビューができました。東京に行った時はあのバンドと働いてる友達と会って相談して論文を書きながらバンドに質問などを送れると言われました。

音楽はインタビューだけではなくてKAMIJOと言うアーティストのライブに参加できました。今回はKAMIJOさんの新しいCDが出て、新しいストーリーの部分について歌っていました。KAMIJOのキャリアのテーマは自分で書いた吸血鬼の物語です。ライブには歌うことだけではなくて曲と曲との間にストーリーについて話したり、動画見せたりするので全部が劇みたいです。本当に面白いアプローチでした。そして先週の週末はKAMIJOさんにインタビュー質問を送りました。論文使う予定です。

日本のポップカルチャーでは吸血鬼のイメージはどんなものである？

どこでも見つけられます。もちろん映画や文学やアニメなどではヴァンパイアのテーマはあるのだとみんなもう知ってます。でも、これ以外は様々なところで見つけられます。前言った音楽。そしてロックだけではなくてポップでもヴァンパイアの曲があります。そして劇などにもあります（例えば、宝塚のポーの一族やドラキュラ

などです）。東京ではヴァンパイアやカフェと言うところもあります。店員がヴァンパイアの格好したり料理も怖い見た目があったりして吸血鬼の家みたいカフェです。これ以外テレビCMとか、人気なキャラクターなど、いろいろなところでもあります。

どうやってヴァンパイアの伝説が生まれましたか？

科学者は様々な意見がありますが、一番人気のは：スラブの国で生まれた物です。スラブの国といえばポーランド、ロシア、チェコ、ウクライナ、ブルガリアなどです。キリスト教はポーランドに来た前、ポーランド人は異教徒でした。スラブの異教徒は少し神道みたいと思います。ペイガンは亡くなった人のお体を日本と一緒に燃やしました。でも、キリスト教が来てから体を燃やすのはダメになって、土におきました。埋めました。あの時代の人の考え方はシンプルだったってこの新しい方法は怖かったです。亡くなった人は帰るのが怖かったです。あの時はヴァンパイアの伝説が生まれたと言われています。ですから、日本ではこんな伝説はありませんでした。日本人は主に亡くなった人のお体を燃やします。そのまま土に置くのはそんなに人気がないと思います。ヨーロッパではキリスト教が来てこんな規則を作った時は吸血鬼の伝説は段々もっと人気になって、全部ヨーロッパに広げて、みんなはこれを信じていました。様々な科学者によると（日本人もヨーロッパ人も）これは一番人気な理論です。後はヴァンパイアの伝説はすべてのヨーロッパに広げて、人気になって、ポップカルチャーにも入って世界中に広がりました。世界中の人気なポップカルチャーの話になりました。アメリカのハリウッド映画で非常に人気でした。でも、ヨーロッパは昔には日本と交流はアメリカよりも少なかったので、大体20世紀までにはこの伝説は日本に來なかったです。ですから、日本のポップカルチャーで新しい物なので日本人の吸血鬼のイメージはヨーロッパ人の吸血鬼のイメージは違います。

日本ではこの伝説は初めて現れたのは昭和です。世界と比べて少し遅いです（ヨーロッパの初めての吸血鬼の本は1748年にドイツで出版された）。初めての日本の吸血鬼の本は1929年に出版されました。横溝正史の「薔薇検校」という本でした。横溝は昭和時代の小説家で、主にミステリーの本を書いていた。「薔薇検校」は有名なブラムストーカーの「ドラキュラ」という本を翻案した小説です。ドラキュラ伯爵の物語の日本のバージョンです。舞台を江戸に置き換えオランダの学者と若い時、そして姫君などが入り乱れての活劇となって面白い本になりました。ブラムストーカーの「ドラキュラ」と横溝正史の「薔薇検校」は両方読んで比べるのは面白いです。

後は吸血鬼のトピックはもっと人気になって、様々な本が出版されました。ほかの吸血鬼の大事な日本の本は半村良の「石の血脈」です。1971年に刊行されたサイエンスフィクション伝奇小説です。この小説では吸血鬼伝説や狼男伝説などが絡みました。小谷真理という評論家はこの小説について書いたのは、あの時代の日本の

男性作家にとって吸血鬼などの外国の文化は日本人と外国人の人種的な争いとの関係があります。戦後の日本はアメリカの占領軍だけではなくてアメリカのポップカルチャーも受け入れました。この文化の教則的な吸収は日本の産業構造や経済成長を上達するのを手伝いました。この間外国の文化に素早く反応できる日本の知識人は新しい貴族エリートみたいグループになりました。半村良の小説はこの70年代の局面をはっきりと反映しています。彼の吸血鬼は文字通り人を石化できて、数年間にそれらの不滅な存在をできるように体内に特別なウイルスを持っています。このウイルスは海外から輸入され、文字通り不滅のため死んでいる日本の貴族を表す小説です。著者によっては吸血鬼のウイルスは、ほとんど第二次世界大戦を承認した日本人男性の海外の文化向け態度などを表します。1945年に半村良は海外の吸血鬼の伝説を“日本化”していました。

そして吸血鬼のトピックは本だけではなくて映画とか漫画でも人気でした。漫画は吸血鬼のテーマは本当に人気です！マイアニメリストという漫画とアニメの情報を集めるサイトでは「バンパイア」という言葉を検索したら335個のタイトルが出ます。思ったより多いです。

初めての吸血鬼の漫画は1872年の「ポーの一族」でした。そして今年は宝塚の劇になりました。非常に人気でした。ポーの一族は、萩尾という女性の漫画家の漫画です。ポーの一族は西洋に伝わる吸血鬼の伝説を題材にした少年の姿のまま永遠に生きるエドガーと名付けた吸血鬼の物語です。成長できなくて大人になれない少年の姿が描写されています。萩尾は「永遠に子供である子供を描きたい」と言いました。日本人の漫画家ですけどこの漫画で出てくるキャラクターは日本人ではありません。主人公は14歳の早すぎる吸血鬼になった少年です。性格は大人っぽくてもまじめだっても外見はいつまでも子供を似てます。作品の中で出てくる吸血鬼の特徴は大体ほかの物語と同じですけど人間の血を吸うほかは、赤いバラやそのエキスを食用とします。これはとても珍しいと思います。

ヴァンパイアの漫画と言えば主にロマンチックな物語ばかりです。ポーの一族のほかは例えば：ヴァンパイアプリンセスミュやヴァンパイアナイトやミッドナイトセクレタリやロザリオとヴァンパイアやちびヴァンパイアなどです。全部ロマンチックなストーリーで主に女性向け漫画です。この漫画の吸血鬼はカッコよくて、優しくて、魅力的な方です。ホラーも勿論あります。漫画のファンは、日本人のファンは主にあのロマンチックな吸血鬼のストーリーを知ってます。ホラーのタイトルは海外の漫画のファンの方は詳しいです。

漫画とアニメではヴァンパイアがたくさんいるけどヨーロッパのイメージと違います。なぜなら海外から来たので途中でちょっと変わったからです。日本のポップカルチャーにある吸血鬼は主にアメリカの映画やアメリカのポップカルチャーに基づいた吸血鬼です。一番人気なイメージはデカダンスの貴族の方です。エレガントな服を着る貴族のメンバーなどです。ヨーロッパの元の伝説

の怖くてアンデッド(不死)のものと全然似ていません。そして吸血鬼の伝説ではキリスト教は本当に大事だったが日本ではキリスト教はヨーロッパと比べてそんなに人気がないので日本のヴァンパイアの漫画には主教的な事などは違う意味になります。例えば十字架は日本のヴァンパイアの漫画で出る時はあまりキリスト教の意味がなくてカッコいいや異国情緒(エキゾチック)なイメージです。そして例えば血を吸うのも時々ある漫画や映画には全然出ません。ヨーロッパのヴァンパイアの物語では血を吸うのは多分吸血鬼の一番大事な特徴ですが、日本のポップカルチャーでは時々だけあります。それに大事ではなくて、意味がありません。みたいです。

そして外見です。今まで読んだ日本のヴァンパイアの漫画は4分の3には、見た目は大体同じでした。大体全部出る吸血鬼の外見はヨーロッパ人みたいです。ホラーでも少女向け漫画でも同じです。髪の毛は明るくて(金髪、白など)肌も白くて、目が珍しい色になります。そして少女漫画の吸血鬼はいつもきれいです。美少女や美少年ばかりです。見た目ですら怖くないです。時々モデルみたいです。大きなお城に住んでる貴族です。

逆にヨーロッパ人が持っている吸血鬼のイメージは全く違います。汚くて、怖くて、貧乏な服を着てるモンスターです。

吸血鬼のテーマは段々もっと人気になって漫画やアニメだけではなくて最近テレビドラマでもたくさん出ます。でも吸血鬼のドラマな3分の2はロマンチックな話です。例えば「恋するヴァンパイア」、「ヴァンパイアホスト」「ヴァンパイア天国」、「恋して悪魔」などです。タイトルだけ見てもホラーやアクションではなくて多分イケメンの吸血鬼について物語とイメージが出ます。

今あげた例を少しまとめて比べます。

勿論これで私の研究はまだ終わっていません。まだまだたくさん読まなければならない本があります。こんな深い研究には一年間は短いですが、今まで研究できた物をまとめます。

私にとっては日本人とヨーロッパ人の吸血鬼のイメージの違いは外見、そしてその性格とその特徴です。今描写した吸血鬼映画とか本は主にエレガントな美しい姿でした。よく金髪や白い肌や美しい貴族の方などでした。ヨーロッパ人として私が持っているイメージは逆です。吸血鬼が怖くて全然ロマンチックな物ではなくて吸血鬼について思うとホラーのイメージです。恋するヴァンパイアというドラマやポーの一族の漫画などを読むとびっくりしました。こんな作品では吸血鬼は可愛い少女や優しい美人な少年などでした。ヨーロッパ人にとっては吸血鬼は絶対に怖い物です。外見も美しくなくて、汚くて、全然エレガントではありません。ヨーロッパでは吸血鬼映画に出る姿は主に怖いんです。例外もちろんありますが、そんなに多くなくて、一番普通イメージは：怖い物です。

ポーランド人に聞きました「ヴァンパイアという言葉を知ると初めてのイメージとか映画とか考えとかは何ですか？何について思いますか？」。主にみんなはホラー

映画について話して、ドラキュラだけではなく、とても怖いホラー映画など言いました。エレガントな方ではなくて汚くて会いたくない方でした。日本は逆です！日本人の友達に同じ質問をしました。友達は初めて思ったのはドラキュラ伯爵でした。エレガントな貴族の方でした。あと吸血鬼漫画でした。

その性格も違います。多くの日本の作品ではヴァンパイアは優しくそんなに怖くないものでした。深く愛を感じるし、悲しみなども深く感じます。ヨーロッパ人にとってはヴァンパイアは激しくて愛などを全然感じなくて食欲しか感じなくて全然会いたくない者です。

どうしてこんな大きな違いがありますか？

どうして日本人は「恋するヴァンパイア」みたいな映画を作ったりして同時にポーランド人は村に住んでいる人を捕まえるヴァンパイアについて映画を作りますか？

この質問の答えはまだ探していますが、今も様々な考えがあります。多分、宗教の関係だと思えます。

ヨーロッパではヴァンパイアはキリスト教と強い関係があります。はじめからキリスト教と一緒に現れた伝説です。例えばポーランドはキリスト教の国です。大体90%の民俗はキリスト教ですから全部の元の吸血鬼の特徴はよくわかって、まだあの昔の人の恐れなどをわかります。現代の人は勿論この伝説は嘘だと分かりますが、この怖いイメージはまだ私達の頭の中であります。

一方、日本ではキリスト教は勿論ありますが、そんなに人気がありません。教会に行く人は少ないですね。多分日本人にとっては吸血鬼は普通な伝説だと思います。深い意味がなくて、そのキリスト教の関係がある特徴も日本では意味がなくて、多くの人は面白いストーリーしか思わないみたいです。これは私の一つの考えです。他のは日本には吸血鬼の伝説はアメリカの文化とアメリカのポップカルチャーと一緒に来ました。あの頃のアメリカでは一番人気のはブラムストーカーでしたから初めての来日した吸血鬼のイメージはドラキュラ伯爵でした。この特別なイメージが人気になって民族の伝説などと関係なし、ただのストーリーとして人気になりました。ヨーロッパ人はドラキュラの本を読んだり、映画を見たりする時はやっぱり一つのストーリーだけと思わなくて、ずっとあおの民族伝説の怖い物についても考えます。これもいい説明かどうか知りませんがこの質問の答えはまだ研究します。これを調べるように多分これから主教など研究した方がいいと思えます。

ヨーロッパの作品ではよく吸血鬼の特徴はヨーロッパの伝統的な文化や民間信仰や主教（そしてキリスト教だけではなくて、ヨーロッパの異教徒にも）と関係があります！こんな関係は大事です。日本の作品では、吸血鬼の特徴は私達ヨーロッパ人、は知っている文化や民間信仰などと関係があまりなくて、イメージは非常に違います。例えば蒜です。ヨーロッパではみんなは吸血鬼は蒜が怖いと信じています。なぜなら昔からこの植物は体にいい物で病気になった時にこれを食べてまた元気に戻って悪い物や病気などを止められるとみんなはずっと信じ

ていました。

今も同じ考えがあります。日本の吸血鬼の作品ではニンニクは一回だけでも全然見たことないです。多分文化ではそんなに大事ではない植物で、日本の文化の中ではたくさん違う植物はもっと大事なので、作家や映画監督はこんな特徴はどうしてあるのかわからなくて、大事ではないと思って、こんな大事ではない特徴を捨てます。

今までたくさん本を読んで、映画を見て、記事を見つけても、研究はまだ終わってないです。本当に興味深いトピックなので、毎日新しい研究をしても、新しい情報を学べるのでまだ頑張ります。

そして、もう一回、皆さん、この就学のチャンスをありがとうございます。研究はたくさんできて、勉強もたくさんできましたので、大事な経験になって本当に感謝です！今はポーランドに帰って、集めた書類を使って論文を書くのを続けます、書類たくさんありますので、書くのは楽しくてスムーズに前に進むと思います！



ナタリアとマルチンと共に（ポーランド民族衣装）



ポーランド出身力士・露草（三段目）と一緒に…

日本への留学



ナタリア・ガルボッチ
(神戸大学国際文化学部)

私はナタリア・ガルボッチと申します。私はヤギェウオ大学の日本学科の学生で、クラブから来ました。そして去年の9月から神戸大学に一年間留学しました。私はポーランド語から日本語への翻訳について卒業論文

を書きたいと思いましたので神戸大学で主に日本語、翻訳理論、言語学などと関係がある授業を受けました。日本に来る前に日本文化と日本語を4年間勉強していましたが、日本で生活するためにこれは十分なのかと私は心配していました。それだけではなくて、神戸には友達一人もいませんでしたので、張り切ると同時に非常に緊張していました。幸いなことに、私が住んでいた寮には他のポーランド人がもう一人いました。私は、ウルシュラアルトマイエルさんと非常に仲良くして、彼女を通して日ポ・サロンの皆様を知りました。

ウラさんと一緒に色々なところ（広島、東京、姫路など）に旅行しました。しかし、日ポ・サロンの皆様が誘ってくれたイベントは一番楽しかった経験の一つです。

まず、11月に皆様と一緒に万博記念公園に紅葉狩りに行きました。そして、その時日本に来てから初めて大阪を訪れました。ポーランドで秋の時、木の葉も赤くて金色になりますが、日本の紅葉ほど綺麗ではないと思います。日本の紅葉の美しさに驚きました。その日、天気もすごく良かったので、記念のために写真を撮たくさん撮りました。紅葉狩りの後で澤山さんと観覧車に乗りました。とても楽しかったです。

4月に日ポ・サロンが行った花見に参加しました。ほとんどの桜の花が落ちたのに、景色は非常に綺麗でした。祇園町を散歩してから皆様と一緒に美味しく伝統的な食事を食べました。大江能楽堂に行った時、能の仮面をつけてみると舞台における動きの難しさを分かりました。そればかりでなく、後でマルチンさんは私とウラさんに京都を少し案内してくれました。その途中で実際に目の前で芸者を何人か見ました。中学校の時、私は芸者に興味を持っていましたから、嬉しかったです。

最後に参加したイベントはウラさんの送別会です。大学では俳句以外の詩にあまり触れたことがありませんので、日本の詩についての講義はとても面白くて、勉強になりました。そして、美味しいケーキを食べながらウラさんの発表も聞きました。ウラさんは日本で手に入れた資料に基づいてすばらしい卒業論文を書けると思います。私も一生懸命頑張るしかありません。

このイベントだけではなくて、大変お世話になりました。高島さんの推薦のおかげで日ポ協会が行っているポーランド語の授業にも手伝えることになりました。そして、面白いコンサートと行事に参加することができました。

澤山さんは私たちをよくお宅に誘ってくれて、伝統的な日本料理を準備しました。奈良に行った時、田中さんは私たちと一緒にたこ焼きを食べて法隆寺を案内してくれました。日ポ・サロンの皆様はいつも親切で、面白い話をして、どんなことでも手伝ってくれました。

この一年間はあっという間に終わってしまいました。日本文化・料理・雰囲気を楽しみと味わってポーランドに全然帰りたくなるほど楽しかったです。日ポ・サロンの皆様のおかげで充実した留学とたくさんのいい思い出ができましたので、誠にありがとうございます。これからも日本語を一生懸命勉強します。また、お目にかかれるのを楽しみにしています！

はじめまして、こんにちは！



ルチニスカ・ヨアンナ
(神戸大学国際文化学部)

皆様こんにちは。

ルチニスカ・ヨアンナと申します。ワルシャワ大学の日本学科の5年生です。去年の9月から日ポ・サロンの皆様のおかげで留学生として日本の魅力を味わわれ、神戸大学で

日本語を勉強できています。

日本へのご招待と日本でのご支援をいただいていることを本当にありがとうございます。

9月から今まで5ヶ月が経て、皆様のおかげで、多くの様々な経験ができました。色々なところを観光できたり、日本の伝統的な習慣が覚えたり、日本人の友達が見つけれたりできるのを心から感謝いたします。今まで日本で得られた知識のおかげ、私は日本とポーランドの架け橋になれると信じています。

ポーランドにおいて日本文化や歴史も人気があると思います。20年前にもテレビで日本のアニメが見られたので、多くの人達は日本のことをもっと知りたがるようになったと思います。私の場合は同じでした。子供の頃から日本にきたかったです。当時に歴史にも興味を持つようになりました。歴史学部の2年生の時、江戸時代の講義を受けて、そのきっかけで日本の歴史への強い興味を持つようになりました。そのころ初めて新撰組について学んで、日本語を勉強するのを決めて、ワルシャワ大学の日本学科に入学しました。日本学科では自分の興味を広げる機会がありました。歴史ゼミナールの学生として学士論文のと修士論文のも同じように日本歴史の関係があるテーマを選びました。

今の所、皆様に学士論文のテーマを紹介したいと思います。江戸時代という時期以外に興味を持っているのは第二次世界大戦です。皆様は「永遠のゼロ」という映画をご存知ですか？「永遠のゼロ」という映画は宮部久蔵

という特攻隊のパイロットの物語は映しています。私の学士論文はその映画に基づいていました。映画の元には百田直樹に書かれた小説です。学士論文の目標は映画に出たシーンと現実に起きたことの比較でした。そのため映画に出た特別攻撃隊の物語で歴史的な事実を探しました。研究のため様々な本や映画のウェブサイトなどを検索しました。たまたま映画のシーンは事実と異なりました。学士論文を書いて、初めて日本語の資料を使って、それは自分の読み取る能力のチャレンジでした。

皆様は、修士論文のテーマを良くご存知だと考えていますが、今まで研究してきたところについて説明したいと思います。私の選んだテーマは「戊辰戦争への土方歳三の役割」です。論文で土方歳三に集中したいです。

土方歳三は1835年に武蔵国多摩郡石田村、現在東京日野市、農家民の家族で生まれましたが具体的な月日は詳らかではありません。歳三は6人の兄弟で末っ子でした。土方のお父さんは彼の誕生の数ヶ月前に亡くなって、お母さんは彼が6歳の時になくなりました。お父さんの亡くなった後で、長男の為次郎は当主になりましたが、病氣、盲目のせいで次男は当主になりました。歳三は姉がいて、姉は14歳になって、日野の名主の息子、佐藤彦五郎と結婚して、日野に引越しました。土方と佐藤は仲良くなり、少年の時、姉と佐藤の屋敷をよく訪ねました。後に佐藤は新撰組の応援しました。

少年の時、土方は2回江戸に行ったことがありました。1回目は1845年、江戸上野松坂屋（現在松坂屋上野店）「いとう呉服店」へ奉公に出ました。ところが、そのお店の番頭と喧嘩して、お店の番頭に首にさせられました。2回目は1852年でしたが、お店の名前と業種は今まで不明です。大抵「大伝馬町」というところで奉公に出ました。けれども、今回そこで働いていた女性と関係を結んでしまったので暇を出されたそうです。17歳で天然理心流に入りましたが25歳で正式に入門されました。そこで後の新撰組の隊長、近藤勇と知り合って、すぐ近藤と仲良くなりました。近藤は土方の頼もしい友達になりました。

1863年に土方と近藤勇と共に浪士組に応募しました。浪士組という集団は新撰組の起源でした。土方、近藤と他の日野や石田村から応募した兵士、約13人は抵抗して、その13人は新撰組を創設されました。新しく作成された新撰組の目的は京都を守ることでした。

新撰組の制度が確立されました。近藤勇は隊長に選ばれ、土方歳三は副長になりました。すぐに土方は「鬼の副長」を称されました。一見写真を見ると、優しく、役者のような顔をしていましたが、土方は激しくて、厳しく規則と武士道を守った人でした。戦ったら彼の表情や行動が変わりました。誰かが規則を破る場合、土方に厳しく罰せられました。だから、新撰組の兵士達は土方を怖れました。作成された新撰組の目的は京都を守ることでした。新撰組の制度が確立されました。近藤勇は隊長に選ばれ、土方歳三は副長になりました。すぐに土方は「鬼の

副長」を称されました。一見写真を見ると、優しく、役者のような顔をしていましたが、土方は激しくて、厳しく規則と武士道を守った人でした。戦ったら彼の表情や行動が変わりました。誰かが規則を破る場合、土方に厳しく罰せられました。だから、新撰組の兵士達は土方を怖れました。前に言った通り、2章の卒業論文はポーランドで書き終わりました。最後の章のために日本で資料を完成したいと思います。役に立つのは本や土方の戦った戦場の観光などだと思います。今まで京都に行っていたことがありますが帰国の前に函館と日野市にも行こうと思います。その上、日野市で毎年5月11日から12日まで祭りがあります。その祭りは歳三の死ぬ記念日の祭りだそうです。祭りに参加できるのは私にとって良い思い出を作るチャンスだと思います。

ポーランドで卒業論文のために準備しながら、色々な本で情報を調べたり、映画を見たり、インターネットで記事を探したりしましたが、見つけた情報は足りませんでした。良い論文を書きたいので困りました。ポーランドで必要で専門的な本が少なく、英語でも書いた資料は多くなかったです。だから、皆様のおかげで、日本で論文のために書類を見つけたり、本を買ったりしたいと思っています。

次に1年間の留学の予定について話したいと思います。10月から神戸大学で留学生として日本語を勉強できています。大学で大勢の優れた先生を知り合うことができました。大学でたくさん面白くて、授業中で日常生活に使った表現を学べます。日本に来る前、文法は私の欠点でしたが、今、先生のおかげ、文法の使い方をだんだん理解できています。大学の先生もとても優しく、問題があったら、いつでも相談できます。すぐに長い春休みがありますが、新しい学期に上のグループに入ろうと思っています。毎年日本語能力試験を受けてみて、今年も7月に日本語能力試験を受けてみたいです。

勉強は大事な事ですが休暇と遊ぶの時間も必要だと思います。今まで、皆様と一緒に関西で見物ができて、美味しい料理、特にお好み焼きを食べられ、素敵な思い出を作りました。けれどもまた行きたいところがたくさんあります。関西で感じの良いところがたくさんあります。神戸で私の大好きなところは港だと思っています。桜の季節になるとそこで素敵な眺めが見られ、港の花見を待ち遠しいです。帰国の前に東京や沖縄や松本や日光などに行きたいです。

他の紹介したい話題は日本の生活です。

神戸で5ヶ月くらい住んでいて、ここで送った生活にもう慣れました。来たばかりによく迷ったり、緊張したり、前の留学生に相談を聞いたりしていました。けれども、今、日本の生活を楽めます。日本で様々な料理を食べて、好きな味や食事を見つけるきっかけです。

ここまで自分のスピーチを終わります。日ボ・サロンの皆様、日本にご招待させていただいて、誠にありがとうございます。今まで様々な経験を得られたり、大勢の優れた方と知り合ったりできて、大変感謝いたします。だから、皆様ががっかりされないように論文とも勉強とも一所懸命に頑張ります。

日ポ・サロン創設20周年記念コンサート開催

三原 剛 MIHARA TSUYOSHI

バリトンリサイタル

2018年10月6日(土)

午後2時開演 (1時30分開場)

ザ・フェニックスホール



バリトン 三原 剛



ピアノ 南なほき

..... ぶろぐらむ

●4つの厳粛なる歌 OP121・ブラームス

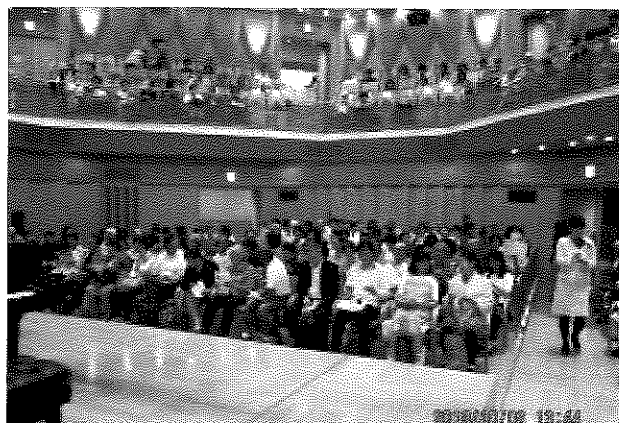
1. 世の人に挑むなら
2. 私は全ての虐げを見た
3. おお死よ 何と苦痛に満ちたものか
4. たとえ私が天使の言葉で語ろうとも

ピアノ独奏

●6つの小品より抜粋 OP118・ブラームス

●日本の名歌曲から馴染み深い名曲

初恋、落葉松 ほか



開演前、会場はすでに熱気に包まれていました

「三原剛バリトンリサイタルを終えて」

南 な ほ き

ちょうど2年前の今頃の季節だったでしょうか。

日・ポサロンの方から「三原先生にリサイタルのご依頼をしたい」というお話を伺って、何とかお役に立てればと強く思ったことが秋が深まるのと共に思い起こされます。

初めは間でお繋ぎすることができればと思っておりましたが、三原先生の方から「お引き受けするならば是非南さんと」というお言葉を頂き、夢のような機会を頂けることとなりました。

今年に入りプログラムを決めていく段階で「まずはいろいろ一緒に演奏して何が二人の感性に合うか試してみたい」と先生にご提案頂き、「詩人の恋」やいろんな日本歌曲をその場で合わせました。とても刺激的で真剣勝負といった音楽家として幸せな時間の中で「南さんとなら是非ブラームスをご一緒したい」という答えに辿り着きました。

奇しくも私自身何年もかけてブラームスのソロや楽器のアンサンブルに力を入れておりまして「是非させて頂きたいです!」と即答させて頂いたことを覚えております。

三原先生は実はデビューリサイタルの時に、この“厳粛なる歌”を演奏されてそれ以来という、先生にとってもとても意味合いの強い演目だとお聞きしました。

私の中で「これ以上ないプログラムになるかも」という嬉しさと共にプレッシャーも強く感じた瞬間でした。自分なりに勉強を重ね、自分の師匠のところに通い、三原先生の音楽に少しでも応えられるようにと思って日々を過ごしてまいりました。

そして先生とのリハーサルの一回、一回、当日のゲネプロと重ねていく中で、先生の音楽を共有できる幸せを心と指と生み出される響きの中で実感しておりました。もちろん、その過程の中ではうまくいかないことや自分の力の足りなさを痛感することもありました。ですがその思いも全て私の大きな財産になっております。

当日は皆様とも共有できた宝物のような時間だったと思います。本当にこのような機会を与えて下さった日・ポサロンの皆様、共演者を選んで下さった三原先生、いつも快く応援してくれる家族に、また今は亡き母に心よりの感謝を申し上げます(私の永遠の心の友、亡き愛猫にも)。

そしてこの先もまた前に歩いていけるように、この貴重な経験を大切に努力していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

「三原剛バリトンリサイタル」を担当して

澤 瀧 徹 郎



リサイタル終演後、三原さんを囲んで。(ロビーにて)

昨年2月初めに大阪芸術大学学長室を訪ねて三原先生と直接お会いして、日ボ・サロンの活動の目的、留学生支援招聘の実績、支援事業としての演奏会の過去の実績などを説明申し上げ、2018年秋予定の日ボ・サロン創立20周年記念演奏会への出演を懇請、その場で前向きな即答を頂き、ホッとして一安心し、早速ホール側との日程交渉に入り、沢山の方々の協力に支えられ今回の演奏日程にこぎ着けたものです。

10月6日の演奏会は前日より台風24号の関西地方直撃のニュースに右往左往しましたが、前日5日午前中に決行を決定し、ホール側、アーティスト等に連絡し、台風の行方を見守りながら神頼みの時間でした。当日は早々にアーティスト達は楽屋入りし、気合を入れた表情に圧倒されそうな雰囲気、早速1時間半余りのリハーサルに入る。アーティスト達はホールの響きを身体全体で会得し音楽創りに集中する。

午後2時開演、ブラームス辞世の名曲「4つの厳粛なる歌」が始まる。童謡の黄金虫に似たメロディーで始まる。お客様の集中力が凄い！第1部後半は、やはりブラームスのピアノの名曲「6つの小品」から、南先生のピアノ独奏で永年に亘るブラームス研究の成果を存分に発揮した素晴らしい演奏に魅了された。

第2部では柔らかなMCを挿みながら日本の馴染み深い名歌曲を9曲熱唱。鳴り響く身体、格調と品格を備えた豊かな表現、空気を揺るがす心をゆさぶる歌唱力、音楽の真髄に触れる歌唱力にホールの雰囲気は最高潮に！！

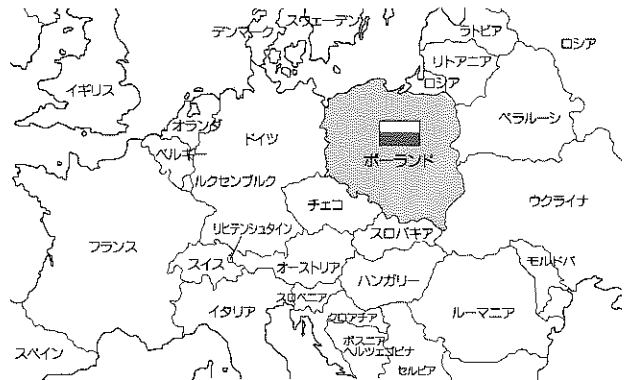
素晴らしいピアノ伴奏と相まってお客様と一体になった瞬間だった。これも全て三原先生の献身的な取り組みと格調高い人間性の表れと感じるひと時でした。

終演後のロビーの雰囲気は格別で、いい音楽を聴いたお客様は、全身から幸せ感が溢れ出る雰囲気、その場から去り難く、時間を超越して音楽の余韻を楽しまれる様子がロビーに溢れたひと時でした。

日ボ・サロンとしても歴史的メモリアルな演奏会が開催出来たことを喜びたい。

関西在住日ボ・サロン後援留学生(2018年度)

マルチン・タタルチュク	京都大学文学部大学院現代文化学専攻
アガタ・ブイエジボフスカ	神戸大学経済学研究科講師
ウルシュラ・アルトマイエル	神戸大学国際文化学部
ナタリア・ガルボッチ	神戸大学国際文化学部
ヨアンナ・ルチニスカ	神戸大学国際文化学部



ポーランド留学生支援団体 日ボ・サロン

<http://nipposalon.org/>

< 編集後記 >

2018年は地震、台風、豪雨で日本列島は災害に襲われて被災地は未だに道路は寸断され、木々はなぎ倒され、屋根にはブルーシートが被っている家も見られ胸痛みます。穏やかな日々を祈るばかりです。

2019年9月22日に日ボ・サロン創立20周年を迎えます。ホームページには会報創刊号から第18号まで掲載されています。その間の招聘留学生の学びや日本滞在記、活動行事の会員みなさまの思い感想から、日ボ・サロンの歩みが会員お一人お一人の温かいご支援が読み取れ20年の重みに感謝致します。一年を振り返って会報作製に当たらせて頂ける喜びを噛みしめています。

20周年記念号会報に皆様のご感想ご意見をお寄せ下さい。

事務局担当 岸 本 啓 子